

会 議 録

| | |
|--------|---|
| 会議の名称 | 平成30年度第6回富士見市社会教育委員会議 |
| 開催日時 | 平成30年12月3日(月)午後6時30分～8時 |
| 開催場所 | みずほ台コミュニティセンター |
| 出席者 | 搦木道代議長、本間雄一副議長、荒川照子委員、板橋三宏委員、岡野雅一委員、京谷恵子委員、佐々木真理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、吉田廣子委員 事務局 |
| 欠席者 | なし |
| 公開・非公開 | 公開(傍聴人 1人) |
| 会議次第 | 1 協議事項 ・ハイティーン世代の実態について |
| 会議資料 | 定期刊行物 |
| 会議録確認 | 搦木道代委員 |

会 議 内 容 (要点記録)

1. 開 会

○議長あいさつ

2. 協議事項

委員より提出してもらったレポートをもとに、協議を行う。また、提言書のプロットについて、意見を求める。

【事務局】委員より出された意見（レポート）を「現状」「現実的に目指せる状態」「理想」に分類し、色分けをして一覧にした。

【委員】ハイティーンの現状として、友達同士の関係が希薄であったり、周囲との関係よりも、自らの関心のあるところ・部分にしか興味がないのが、実情ではないか。時代に逆行しているかもしれないが、ハイティーンを、大人や地域コミュニティが包める状態を理想として掲げさせてもらった。

【委員】東松山のスリーデーマーチに参加したが、市全体で取り組みをやっているという印象を受けた。高校がある影響もあると思うが、「分け隔てなくどの年代でも関われるイベント」を前面に出すことで、若者の参加も変わってくると感じる。理想を考えた時に、前回、講演会の講師をされた湯浅氏の本を読んで、どんな些細なことでも大人が見守っていくことが必要なのでは、と思いそれぞれの世代が手をつないでいるイメージを考えた。「子どもを育てる」という意味を真剣に考えることが大事だと思う。家庭学習応援事業については、多くの人が享受できるように、ハイティーンが教える場をつくってもいいのではないかと思う。

【委員】理想の図として、ハイティーンが包み込まれているのもよいが、大人も少なからずその世代に影響を受け、いろんなことを学んでいると思う。どちらかというところ、ハイティーンもそれぞれ自立した世代として、双方がよい影響を与え合える関係が望ましいのではないか。そのため、包含しているのではなく、並列している状態がイメージとしてぴったりくる。これからの社会を考えた時に、世代関係なく「上に立つ人」を教育していく必要があるように思う。

【委員】レポートを整理している中で、ハイティーン世代が地域活動に参加する意味や必要性を考えた時、1点が地域の仲間とのつながりが「急激に」希薄になってくるということ、もう1点が同世代や年下の世代に対し、大人からは感じとれないほどの「共感性」を発揮するというのを思った。それと同時に、ハイティーンが担う役割は何か、その世代でなければできない地域活動は何かなどの疑問も同時に浮かんだ。興味関心事が、地域から離れているというのも、この世代の傾向。中学校卒業後も継続できる取り組み、集まれる場の設定、動機づけなどが、キーワードになると思う。

【委員】具体的な取り組みとして、寺社の境内の掃除などは檀家や氏子の方々がやっているが、地域の文化財を意識するなら、家族ぐるみで参加する共同作業としては取り組みやすいのではないかと思う。また、市内には青少年に特化した公共施設はないため、行政サイドからハイティーンを対象とした事業の活

性化を目指すことも、よいと感じる。現実問題として、進路を決める受験など人生の岐路に立つ世代でもあるため、なかなか難しい側面もある。しかし、一時的に地域コミュニティから離脱しても、また帰ってきたいという気持ちを持たせることが大事ではないか。

【委員】具体的に働きかけて取り組まないと始まらないのが現実。小学生や大学生と関わっていると思うのは、大人が思っている以上に、やらせてみると結構できるという実態がある。今年、三芳町の事業であったが、「子ども探検隊」という枠を学生に与えて、中身を自由に企画してもらったら、とてもしっかりとしたものを作り上げた。ボランティアというと「お手伝い」というイメージもあると思うが、企画運営などすべてを任せると、意外に今の若者はできるのではないかと感じている。理想の図としては、地域コミュニティと大人が別枠であったが、地域コミュニティの中に、大人がいて、子どもがいて、という図の方が、イメージしやすいと思った。

【委員】地域性もあると思うが、寺社が近所にある環境だと、先ほどでた家族ぐるみで活動に参加というのはいまよくつながると思った。南畑でも住職の方が子ども達に、除夜の鐘の意味などを話したりする機会がある。つながりをもつきっかけとして、寺社はよいと感じる。また、東大久保に数年前にできたカフェだが、今、子どもに門を広げ、学習支援を行っている。人数が多く入るカフェではないが、行動を起こしている人がいるということに、元気をもらえる。今、口コミで「何か始めているらしいよ」と広がっているところ。

【委員】レポート作成にあたり、若者をもっと前に出すような仕組みがあるとよいと思った。先ほど、「任せるとやってくれる」という話があったが、共感する。考え方、価値観の違いからギャップがあると考えがちだが、もっと、大人が若者視点でいろんなことを考え、若者たちの考えを表に出していくことが、若者の参加を生むのではないかと考えた。街のPRなどは、題材としてよいと感じる。SNSの使い方など、本当に今の若者は長けているので、そういう技を持った人の活用をうまくできたらよいと思う。

【委員】大人も含め、いろんなタイプがいてよいと思うのと、その存在を認めてあげるといのが、いちばん大事な気がする。学校にいつているからいい、働いているからいい、というのではなく、地域も大人も若者も、関わりあっている関係がつくられているといのがいいと感じる。先ほどの話を聞いていて、若者にパワーがあるといのがあったが、やはり大人がどのようにその場を与えられるかによるのではないかと考えた。モチベーションをもたせることや、楽しさを感じてもらうためには、大人が一歩ひいて立たせることが必要、先ほど前に出すとい話があったが、それと通じる。水谷文化祭はいい例になると思うが、数年前は本郷中と水谷中が部活単位で参加をしてくれていた。そこから、現在は任意での参加にかわっているが、かなりの人数の生徒が参加してくれることで、「大人の文化祭」ではなく、「地域の文化祭」に変わってきている。高齢者の方に対して、スマホの使い方の講師などは、ハイティーンだからこそできる講座ではないかと感じる。

【議長】まとめ方として、委員の方それぞれの意見がでているので、提言書では、できればすべての委員の意見を載せたいと考えるが、どうか。

【委員】了承。

次回会議日程

平成30年度第7回会議

日程：平成31年1月28日（月）午後7時～

場所：教育委員会 会議室

3. 閉 会